

いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会

翔べ 羽ばたけ そして未来へ

<戦評>

1 回戦 愛知県2-3山口県 2019年9月29日(日) 北海浜多目的球技場 12時kick off

中国ブロック大会を1位で通過し、4年連続で本大会出場となった山口県は愛知県との初戦を迎えた。キックオフ直後、勢いよく攻め上がった山口県は相手陣内深くに攻め込み、サイド突破から⑦MF 柳井がペナルティエリアはるか後方から豪快なロングシュートを決めて先制した。立ち上がりには失点した愛知県だったが、慌てることなくボールを保持していく中で徐々にペースを握り始める。バイタルエリアでテクニックを駆使しながら山口県ゴールに襲い掛かる愛知県に、10分、12分と立て続けに⑨FW 眞鍋にゴールを決められ、逆転を許してしまう。その後も愛知県ペースでゲームは進むが、26分に相手チームのビルディングアップをインターセプトした⑥MF 末永からのパスを受けた⑩FW 河野が相手 GK の立ち位置を冷静に見極め、頭上を越すループシュートで同点とし、前半を2-2の同点で折り返す。後半に入り、相手陣内でセカンドボールを回収した⑬FW 林からのスルーパスにうまく抜け出した⑩FW 河野が、またも飛び出した GK の頭上を越すループシュートで勝ち越しに成功する。その後、両チームともに何度かチャンスを演出するが、得点には至らない。終了間際、猛攻を仕掛ける愛知県に対し、山口県は体を張った守備と①GK 徳若のファインセーブでゴールを死守して、山口県が勝利をおさめた。



2 回戦 山口県1-0大阪府 2019年9月30日(月) 北海浜多目的球技場 12時kick off

大阪府との2回戦。昨年の福井国体では1回戦で対戦し、先制するも1-3で逆転負けを喫している。



この大阪戦を、主将の柳井を含め4人の選手が経験している山口県は昨年の雪辱に燃える。一方、豊富なタレントを揃える大阪府は⑨FW 下川、⑪FW 坂本を攻撃の起点とし、⑦MF 三木、⑩MF 中村がゲームを組み立てる。序盤から大阪府ペースで試合は展開したが、相手 DF の一瞬のミスを見逃さなかった⑩河野がボールを奪い、左サイドを突破してのクロス⑬FW 林が左足で合わせて山口県が先制した。先制後は、集中力を切らさずに粘り強く体を張ってゴールを死守し、前半を1-0で終える。後半に入り好機を見出したい大阪府だが、バイタルエリアや右サイドを封じ込めにかかる山口県の守備をなかなか攻略できない。逆に山口県は自陣で奪ったボールを⑩河野に預け、ここを起点としたカウンターを仕掛ける。何度か決定機をつくったが得点には至らず、そのまま試合は終了して、2004年の埼玉国体以来のベスト8進出を決めた。

準々決勝 山口県0-0岡山県 2019年10月1日（火）新浜緑地多目的球技場 11時kick off

中国地域対決となった準々決勝。山口県は昨日と同じ布陣でスタート。⑩河野を中心に攻撃を組み立てようとするが、岡山県の守備陣もそれを許さない。岡山はテンポよくボールを動かしながら山口県ゴールに迫る。連戦の疲労から両チームの選手の動きはやや精彩を欠くものの、両チームとの一進一退の攻防が続く。そんな中、徐々に主導権を握りはじめたのは山口県。後半は終始山口県のペースで試合が進み、⑩河野はバイシクルシュートを含む両チーム最多6本のシュートを放つも、岡山県の体を張ったディフェンスに阻まれる。岡山県は試合終了間際に、昨日の神奈川県とのPK戦で活躍した⑫GK寺島



を投入。試合は終了しPK戦へと突入する。互いに1本ずつ外して迎えた9人目、山口県の守護神①徳若が見事にPKストップ。しかし、その後の山口県も⑫寺島に止められ、勝負は振り出しに戻る。ここで山口県①徳若が勝負強さを見せる。岡山県の9人目に続き10人目のキッカーも連続ストップ。山口県10人目の③DF金坂が落ち着いてPKを成功させて、激闘に終止符を打った。

準決勝 静岡県6-1山口県 2019年10月2日（水）新浜緑地多目的球技場 11時kick off

49年ぶりの国体ベスト4進出となった山口県。選手、スタッフがチーム一丸となって決勝進出を狙う。対するサッカー王国静岡県も国体がU-16化となってから初の（単独）優勝を目指す。試合は開始早々に動く。連戦の疲れを感じさせず、前線から積極的なプレッシングをかける静岡県は、⑨FW千葉が山口県GKからボールを奪取し、先制する。予期せぬ展開で失点した山口県に動揺の色は隠せない。攻撃の手を緩めない静岡県は、立て続けに山口県ゴールに襲い掛かる。CKを得た静岡県は、キッカー⑦MF藤原の質の高いボールに⑪杉本がヘディングで合わせて追加点をあげる。徐々に落ち着きを取り戻して試合を立て直したい山口県だったが、25分にも失点を喫して前半を0-3で終える。積極的な守備を続けた静岡県は、前半山口県をシュート0に抑え込んだ。後半、反撃の糸口を掴みたい山口県だったがPKを献上して0-4となる。山口県は49分、⑩河野を中心とした見事なパスワークから得点を挙げる。攻撃のリズムがでてきた山口県だったが、静岡県も持ち前の守備力で山口県の攻撃を跳ね返す。その後⑤DF田中を前線にあげて、諦めることなく3点のビハインドを奪い返しに行く山口県だったが終盤に2失点し1-6で敗れた。



3位決定戦 山口県1-0香川県 2019年10月3日（木）北海浜多目的球技 13時30分kick off

昨日の準決勝で大敗を喫した山口県だったが、その後の切り替えがうまくできたであろうということが、選手やスタッフの表情からも伺える。ウォーミングアップ前の円陣で松井大輔監督は、「素晴らしい環境の中で素晴らしい選手・スタッフと活動ができたことに感謝し、勝利という最後のピースを全員で掴みとって、それぞれの未来のパズルを完成させよう。」と、目を潤ませながら語り、選手たちをピッチへ送り出した。試合は立ち上がりから山口県ペースで進むが、香川県も⑪FW岩佐を起点としたカウンターでチャンスを伺う。試合が動いたのは28分。初戦の愛知県戦で見せた、⑯MF林と⑩FW河野のコンビネーションから最後は⑩河野がゴール左隅にシュートを決めて均衡を破った。後半に入っても山口県は攻撃の手を緩めない。決定的な場面を何度かつくるがゴールを割ることができなかったが、このまま試合は終了して山口県が県勢史上初の3位入賞を果たした。

＜成果と課題＞

4年連続の本大会出場となった山口県は第3位という半世紀ぶりの快挙を遂げた。この山口県の躍進を支えた背景を考えてみたいと思う。まず、4種年代からの育成の積み上げが成果としてあらわれはじめているということがあげられる。地元山口県で生まれ育った子どもたちが、それぞれのチームやトレセン活動を通して着実に力をつけてきている。これはFA指導者養成部の取組と改革が深く関係している。県内リフレッシュ講習会やトレセンコーチ研修会等において、指導者の意識と指導スキルのブラッシュアップに着手してきたことは、指導者にとってもその指導を受ける子どもたちにとっても、大変大きな意味をもつ。今後も指導者養成部と連携を密にし、更なる向上を目指したい。二つ目は、子どもたちの目標となりうるクラブ・チームの存在だ。Jリーグ・レノファ山口は、前身の山口県サッカー教員団時代を含め、創設70年目を迎える。そのチームが、アカデミーを含め山口の子どもたちの目標となるクラブに成熟してきた。数年前までは山口県で育った選手たちが高校進学時に県外のチームへと進学していく、そんな状況が目立った。だが、レノファという大きな軸ができたことにより、その状況が少しずつ変化してきている。もちろん、全国レベルの実力と施設を有する高川学園や公立高校でありながら全国ベスト8の成績を残している西京高校といった高体連チームの活躍も要因の一つであろう。山口で生まれ育った子どもたちが、地元山口のチームに所属し全国大会の上位で活躍する。そんな時代が訪れるのもそう遠くないかもしれない。



ここまでは成果について触れてきたが、山口県の育成が更なる発展を遂げる為に今後取り組んでいかなければならないことについて考えてみたい。私たち指導者の質の向上は最重要事項である。日々子どもたちに接する指導者の向上なくして選手の向上はない。私たちが学ぶことをやめた時、目の前の子どもたちの未来は閉ざされてしまう。講習会や研修会で、自分の指導者としての方向性や尺度を確認することは、子どもたちに接するサッカー指導者である以上、最低限取り組まなければならない義務であると考えます。本県技術委員会としても、指導者の皆様が研鑽する場の提供をこれまで以上に積極的に行っていこうと考えている。また、トレセン認定制度に伴うトレセン改革も急務である。国体はトレセン活動の集大成といっても過言ではない。確かに今大会、素晴らしい結果を収めることができたが、集大成の土台となる各種別のトレセン活動には課題が山積しているといわざるを得ない。体制、トレーニング内容、指導者の質、頻度…今年も年末にFAカンファレンスを開催します。種別の枠を越えて、現状と課題を共有し、国体3位という結果を改革の一步として皆さんと踏み出したいと考えています。